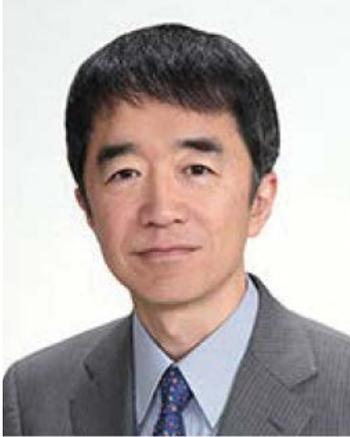


第三者意見

「KUBOTA REPORT 2020」に対する第三者意見



神戸大学大学院 経営学研究科
教授
國部 克彦 氏

■ 新型コロナウイルス後の世界

2020年は新型コロナウイルスの世界的蔓延という歴史に残る年になってしまいました。このような世界的な危機において、コレラから人類を救いたいという使命をもって創業されたクボタグループのDNAは非常に重要であると思います。クボタグループが対象とする水、食料、環境は、世界の価値観をもう一度復興するための基盤です。そのためには命を支えるプラットフォームという北尾裕一社長のトップメッセージの意義は大変重要で、今後の具体的な展開を強く期待しています。

■ イノベーションでSDGsに貢献

国谷裕子氏と木股昌俊会長の対談は、クボタグループのSDGsへの取り組みの真剣さと詳しい内容が分かり、大変興味深い内容です。なかでも、木股会長がSDGsに関する活動について、「若い人に任せたい」と言われていることは大切です。SDGsを掛け声だけで終わらせないために、若い人に任せるのであれば、そのための仕組み作りが重要になります。たとえば、クボタグループは「企業理念の浸透定着活動」を2013年から進めておられるので、このような活動と連携させて、具体的に若手中心のSDGsプロジェクトを生み出して、支援されてはどうか。企業理念とSDGsを掛け合わせることで、新しいイノベーションが生まれるのではないのでしょうか。

■ 先進的な環境情報開示

クボタグループは、TCFDに準拠した気候変動に関するリスクと機会に関する情報開示、スコープ3まで含めたサプライチェーンでの温室効果ガスの情報開示など、先進的な環境情報開示を展開しています。その活動はCDPからも高く評価されており、世界最高水準にあります。ただし、リスクと機会の評価については、まだ定性的な段階にとどまっているケースが多いので、できるだけ定量化することが今後の課題と思います。リスクと機会を可視化すれば、そのための対策もより精度が上がることとなります。

■ 海外での活動

クボタグループのメイン事業領域である農業は、現地との共通価値 (share value) を創造する事業です。その意味で、経営の現地化を積極的に展開されている経営方針は、高く評価できます。海外トレーニー制度の導入や、タイの事例にみられるように、女性にも働きやすい環境を整備されるなど、きめ細かい対応をされています。日本でのクボタグループの良い面が海外に移入されて、現地の問題を解決して、現地化させることは、日本企業のグローバル展開のモデルのひとつだと思いますので、他社の模範となる実践の蓄積を期待します。

第三者意見を受けて

國部先生より貴重なご意見を賜り、厚く御礼申し上げます。

KUBOTA REPORT 2020は、クボタグループが創業以来、さらに今後も世界に先駆けて課題を発掘・解決していく様を、「現地ニーズに寄り添った事業展開」、「イノベーション」、「トータルソリューション」、「クボタだからこそできるサステナビリティ〜命を支えるプラットフォームとして〜」を軸としながら、「SDGs(特に気候変動)」にもフォーカスを当てて構成しました。

國部先生からは「新型コロナウイルス後の世界」と題し、創業時から続くクボタグループのDNA(使命)や事業領域、命のプラットフォームという考え方などに対して過分なる評価をいただき、大変励みになります。

また、頂戴したご意見に対しては真摯に受け止め検討してまいりたいと考えておりますので、今後ともご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

クボタグループは、企業理念「クボタグローバルアイデンティティ」を経営の根幹に位置づけています。「食料・水・環境」の3分野を中心に、クボタの事業機会と社会的責任は、ますます大きくなっています。

最も多くの社会貢献をなす「グローバル・メジャー・ブランド」になることを目標に、これからもクボタグループ4万1千人が一丸となって、社会の皆様にご信頼され必要とされ続ける企業グループをめざします。



(株)クボタ 常務執行役員 CSR本部長
諏訪 国雄